

シソウしそウ ニカン

ズイヒツメイセンシユウ

エイゾウ

目次

シソウしそう ニカン
エイゾウ

はじめに

このシリーズもニカンめとなった。わたしのズイヒツよんサクめから、ロクサクめをまとめたものである。いまおもうと、イチネンにサンサツと、よくだしたものだとおもう。いまは、やすんでいるようだからそうおもう。つぎのこのシリーズがでるまで、イチネンはまたなければならないだろう。

キョウははれできもちがいい。はるイチバンがセンジツふいて、キョウはニバンであろう。ホンなどかいて、ヘヤにこもってなくてよいとおもうが、トウブンやめるきはない。ただ、そとがきもちよさそうなのはジジツである。はたけしごとでもできればとおもう。

ニセンニジュウネンサンガツジュウよっか

イチ、『オンガクイチエンのジダイ』イチ

ソレンはカイサンしてそのゴどうなったか。なぜカイサンすることになったかという、ビョウドウすぎたとき。グタイテキには、はたらかないでキュウリョウをもらうひとにあわせて、よくはたらくひとや、ユウノウなひとがはたらかなくなったからだという。たしかに、あまりはたらかないひとにケイザイをあわせるととんでもないことになる。これは、どこかのくにのケイザイセイサクににている。そうだ、「ザンギョウ」をキセイしようというセイサクのことだ。たしかに、はたらきすぎてしんでしまったり、もえつきてしまったりするのはこまるが、みんながみんなそうなるわけではない。だからザンギョウをとめるのは、コベツにやるべきだろう。はたらきざかりがはたらかなくなったら、やはりケイザイはコンランするのだ。ソレンカするニホンではしょうがないとおもう。

二、『オ』よん

エーからビーにすすむのに、イチビョウかかれば、イチビョウカンかったという。くるまにしても、くるまでもヒコーキでもイドウするにはジカンがかかる。くるまにしても、ヒコーキにしても、ニンゲンがつくりだしたものである。それはチキュウジョウでソクドのはやいブルイだろう。いまのところイチバンはやいとされているのが「ひかり」である。これはニンゲンがつくりだせるか。たしかにデントウはつくったようだ。

ところで、イドウにはエネルギーがヒツヨウである。くるまならガソリン、ヒコーキならジェットネンリョウである。それはどうショウヒされるか。おおきいものをうごかすと、よりおおきなエネルギーをヒツヨウとする。ちいさなものをならすくなくすむ。それからなにかいえないか。そう、「ひかり」よりもちいさなブッシツをつくれば、ひかりよりはやくイドウできるだろう。これを「こまびかり」といおう。なんのやくにたつかはわからないが、チキュウジョウのリョウだけでも、ジョウホウがはやくうごくようになるわけだから、セイサンセイがあがるだろう。

サン、『オ』ジュウ

エーアイがたまにワダイになる。シハンのキカイにもトウサイされたものがある。もっとすごくなると、リョウリのこんだてとか、むだづかいのガクを、ケイサンしてくれるのだろう。そういうエーアイとたたかうのがかしこいのであろうか。あるコウコウセイ、ダイガクセイのチシキは、カキュウのエーアイにうちまかされてしまうだろう。キョウイクにゴヒャクマンエンかけるのなら、エーアイをサンビャクマンエンでかったホウがやすいとなる。キョウイクはジョセイキンでなりたつようなキョウソウができないギョウカイである。だから、そういうエーアイとカカクキョウソウをしたら、キョウイクギョウカイがまけるのはめにみえている。まけるとはどういうことか。キョウイクギョウカイのあかじがふえるということだ。あかじをだすまいと、ねだんをあげるかもしれない。そうするとますますキョウイクギョウカイにおかねをはらうのが、ばかばかしくなってくる。そういうミライがみえたからか、わたしはコウコウにいかなくなった。エーアイとサバイバルゲームをするきはなかった。

どうすればいいか。エーアイをつくるホウにまわれれば、もうかるだろう。ニジュウネンまえはコンピューターがそうだった。コンピューターがリュウコウしていたときは、コンピューターをつくっていれば、もうかっただろう。テレビゲームでハンドウタイやガメンになれていたこともがおおかったから、パソコンにもなじみやすかっただろう。いまは、リュウコウからセイジユクしていき、ハードウェアは、そうそうもうからなくなっているようだ。しかし、パソコンをつかうひとはそんなにへっているわけではないだろう。ソフトウェアはまだまだもうかるかかもしれない。

エーアイはわりとあたらしいソフトウェアである。もし、チシキだけがヒツヨウとすれば、エーアイにかなうひとはそうそういないだろう。ニンゲンはどうすればいいか。うごけばいいのである。このブンのようにかくしごとは、やがてエーアイにうばわれるかもしれない（かといっててぬきをしているわけではない。わたしジシンのユニークさでショウブしているつもりだ。）。

しかし、ものをはこぶとかリョウリをつくるのは、エーアイにはできない。ロボットがやりはじめるかもしれないが、そこのところはキョウソウしてもいいかもしれない。リョウリはつくってたべなきやニンゲンがしんでしまうからだ。そういうキソテキなことではないから、エーアイはかるくみられている。しかし、ガッコウでまなんだことがチシキだとしたら、ニュウシャシケンでは、「おかえりください。うちにはエーアイがいますんで。」になってしまう。そういうわけで、チシキよりギジュツがダイジになっているジダイなのだとおもう。エーアイとキョウソウするくらいなら、つぎにひかえているロボットとキョウソウするのがかしこいといえるかもしれない。

ヨン、『オ』ジュウサン

わたしたちのすんでいるあたりを「アジア」という。もともとチュウトウあたりにあったくにをそうよんだために、それをカクダイしてつかっているようだ。しかし、コウゾウシュギシャ（●『よろこぶゲンシジン [イカ、よ]』イチ）はそれでいいのかとおもう。なぜなら、そのガンソアジアは、ショクミンチにされていたのだ（ゾッコクといったホウがいいかもしれない）。そんななまえをみとめてしまったから、ジュウゴセイキイコウのトウシュウ（レイのなまえはつかわないホウがいいだろうから、かりにトウシュウとしておく。）は、ショクミンチにされてしまったといえるかもしれない。ことばの（こういういいかたはすきではないが）マリョクというやつである。かといってトウシュウといっても、そうそうつうじるわけではないだろうが、ジブンたちのことはそういえるだろう。ゾッコクじゃしょうがない。

ゴ、『オ』ジュウゴ

あるしなものエーがあったとする。エーのほかにエーダッシュもあるとする。エーダッシュだから、エーとはちがうか。それはなんともいえないが、ブツリテキにはまったくおなじものというのはむずかしいから、やはりちがうといえそう。しかし、それだと、エーイコール エーダッシュ、エーダッシュ イコール ビーだからエー イコールビーといういいかたができなくなってしまう。つまり、エーもエーダッシュもビーもちがうということだ。

ロンリはヒャクパーセントとかレイパーセントとかのものだから、ニジュッパーセントゴサがありますではこまってしまう。でもゲンジツはそんなものだからしょうがない。トウケイガクのようにゴパーセントゴサがあります。でいいとおもう。つまり、エーイコールビーであるが、ニジュッパーセントのゴサがあると。ギャクからいえば、エーイコール ビーではないが、ハチジュッパーセントのゴサでまちがえだと。

シーさんいったディは、コウテイされたり、ハンロンされたりするが、サンジュッパーセントまちがいだというようにスウチカすれば、ギロンもハクネツしないのでないか。

ロク、『オ』ジュウハチ

ものがタクサンあるホウがゆたかだろうか。タブン、そういうひとがおおいにちがいない。ゆたかなくらしとは、ものにかこまれたセイカツだと。しかし、わたしはサイキン、クウゲンをかんがえる（●『アルクカラカンガエル [イカ、ア]』ニヒャクニジュウキュウ）。クウゲンとはわたしのゾウゴで、「からっぽ」というシゲンである。つまり、どこかにもものがないホウがジュウともいえる。なにかものをおいてもよいし、おかなくてもよい。しかしそれはフドウサンである。ようするにあきちドウヨウだ。ケッキョクはフドウサンがダイジなのではないかということだ（ヘヤのイチブとしても）。

そういうわけで、わたしはフドウサンをうったわけではないが、かいもどしている。そうすると、ゆとりがでてくる。そうニホンジンのいえはせまいのだ。わたしのおやじもおふくろもヨケイなものはおかなかった。わたしはそうではなかったが、ものがふえるにつれ、どうもジブンがうごけるハニイがせばまってくるのにきづいた。だから、ものをかたづけるといいかたもあるかとはおもうが、フドウサンをかいもどすのである。かねもちのいえはタブンヨユウがあるだろう。けっしてソウコのようにはないとおもう。

シチ、『オ』ニジュウニ

わたしがチュウコウセイのころ、ほとんどジタクではベンキョウしなかった。テレビゲームをしたり、からだをうごかしてウンドウしたり、ガッキをひいたりした。テレビゲームというあそびは、いまのわたしにとってなににもなっていないが、あえていうなら、レキシにキョウミをもったことだ。カンレンボンもよんだ。もうイッテンは、ハンドウタイのハッテンのためになった（●『よ』ヒャクナナジュウサン、ヒャクハチジュウサン）。ウンドウはシンタイのケンコウにつながっているし、ガッキはシュミになっている。

でも、サイキン、ベンキョウなり、ケンキュウもいいシュミではないかとおもえる。ホンとヒッキグテイドにしかおかねがかからないからだ。ホンはゴヒャクエンからかえるが、ガッキはナンジュウマンとする。やすくてもスウマンだ。だから、ショミンにとって、ベンキョウはいいシュミだとおもうのである。それをおそわったのはいいシュウカクであった。

ハチ、『オ』ニジュウよん

なぜテンにめされるといういいかたをするか。それはウチュウをサイセイサンしたホウがいいからである（と、わたしはかんがえる。）。どういうことか。ウチュウはひろがりつづけているという。ベツにそんなおおきくかんがえなくてもいい。タイヨウのもっているすべてのシザイをホウシュツしてしまったらどうなるか（ひかりもシザイである。）。タイヨウはもえなくなり、タブン「ブラックホール」になるだろう。そしてもとのシゲンはとおくにいつてしまっている。またもえるのをサイカイさせようとおもったらど

うか。またシザイをあつめるしかない。だから、ブラックホールはいろいろとすいこむといわれるのではないか。またシザイがあつまれば、またもえることができるのだ。つまり、ニンゲンなんかはテンにめされたホウがよいのだ（あなたがタイヨウケイのながつづきをキボウするのならだが。）。そうすればタイヨウはながくつづく。テンにめされてもいいし、リンネテンセイでもいいのである。

キュウ、『オ』ニジユウハチ

わたしがダイガクにいていたとき、アルバイトをはじめた。それでそのうちダイガクのガクヒをジブンではらうようになった。ゲンエキでニューガクしたならともかく、おくれてはあったので、シュミでガッコウにいておもうようになった。だから、ジブンではらったホウがいいだろうと。それがあったから、コウギはやすまずにうけた。セイセキはまあまあだった。

しかし、ガクヒをだすのはそうカンタンでなく、おかねのやりくりをケイサンするようになった。イチガツにいくらためて、シガツにいくらはらってといったものである。そのときはカイキブンセキ（あるスウジをタンジュンなイチジシキでヨソクするギジュツ）をあまりしらなかったが、イチジシキで、チョクセンテキなスウシキで、それからのみこみ、ガクヒのブンのおかねのたまりぐあいをケイサンするようになった。ワイ（ジブンのジンセイ [ガクヒのたまりぐあい]）イコール エーエックス（マイツキのキュウリョウ [ジキュウ かけるキンムジカン]）マイナスビー（セイカツヒ）といったぐあいである。エーエックス（キュウリョウ）がふえればすぐゆたかだが、そうカンタンではない。トウジはそれにもかかわらず、それをタッセイしようとした。しかし、つとめさきではケイエイゴウリカで、アルバイトジュウギョウインのキンムジカンをへらしていた。これではガッコウにいけなくなるとわたしはかんがえ、ベツのアルバイトをはじめた。しかしである、エックス（キンムジカン）をのぼそうというのは、わたしのみがってなかんがえだ。コヨウぬしとのカンケイできまるものであるのに、そうしてアルバイトをテンテンとした。

ケツカは、おかねはたまったがシュクダイをやるジカンがなくなってしまったので、これはソツギョウできないとおもい、ジネンイコウのケイカクをかんがえた。しかし、このトチュウでジブンのみがってさになやまされる。かせげるかはわたしだけがきめるものではない。そこでうまくいかなかった。いまなら、スウシキのヘンスウをイッコ、ニコふやしたらいいとおもう。つまり、ワイ（わたしのジンセイ）イコール エーエックス（ジブンのドリョク）プラスシーゼット（カイシャのギョウセキ）プラス ディエイチ（シジョウのケイキ）マイナスビー（セイカツヒ）のようにである。さきのシキよりはまともなヨソクができるだろう。

ジュウ、『オ』ニジユウキュウ

ショウバイにはコストとリエキがあるとされる。うりあげ イコール コストたすリエキというやつだ。うりあげをいくらあげても、リエキがないのではもうかっているとはいえない。だから、うりあげでなく、リエキをあげることをスイショウしたりする。コストをこまかくいうと、ゲンザイリョウをかうコストやジンケンヒなどがある。だから、コストをさげようとおもったら、ジンケンヒ（ジュウギョウインのキュウリョウ）をさげるヒツヨウもでてくる。そういうリユウで、カイガイのジンケンヒがすくなくすむところでセイヒンをつくったりする。そのホウが、リエキがおおきいからだ。これはシホンシュギのシュダンといえるかもしれない。

ところでジュウゴセイキくらいのヨーロッパでは、センキョウシをカイガイにおくりだしはじめた。シintaiリクがみつかったのがリユウのひとつだろう。また、そういうチイキをヨーロッパのくにはちからずくでショクミンチカしようとした。なぜショクミンチカするか。あるセイヒンやゲンリョウをやすくてにいれたかったからだろう。そうすればヨーロッパでのセイヒンカカクがひくくおさえられるか、リエキがおおくのである。センキョウシをカイガイにおくりこむことも、コストをさげるためだとおもう。

どういうことかという、ヨーロッパでシュウキョウにかかわるひとをイクセイしようとする。それにはコストがかかる。かりにひとりあたりイッセンマンエンかかったとしよう。シュウキョウにうりあげのガイネンをもちこむのはどうかだが、そのひとたちがそれぞれニセンマンエンうりあげたとする。そうすると、ひとりあたりリエキはイッセンマンエンとなる。しかし、ショクミンチでひとをそだてれば（ヨーロッパよりブッカがやすいとカテイする。）、ニヒャクマンエンでひとりそだてられる。それなら、コストはゴブンのイチだから、うりあげをおなじスイジュンでかんがえれば、センハッピークマンエンのリエキ（そのひとをキョウイクゴにヨーロッパにまねいたばあい。）、うりあげがすくないとしても（たとえばヨンヒャクマンエン。）、ちいさなキングクでキョウイク、センキョウができるのである。こういうわけだから、やっぱりセンキョウシも、ジンケンヒがやすいところに行くのだ。これをシュウキョウのホウホウとよぶことにする。シホンシュギのシュダンとシュウキョウのホウホウはどちらがさきにできたかわからないが、おなじようなものなのである。ただことばのかべがあるから、カイガイでやすくつくるのはカンタンではない。しかし、エイゴのフキユウでそれはやさしくなっているし、ホンヤクキもセイドがあがっているだろう。だからカイガイでつくるのもやさしくなっているかもしれない。

ジュウイチ、『オ』サンジュウ

「いいニュースがある。シホンカとロウドウシャのタイリツがおわったんだって。」といえるひはいつのことだろう。たしかにそれは「おわる」かもしれないし、「おわら」ないかもしれない。エーアイとロボットギジュツがハッタツしている。なにかのセイヒンのコウジョウでも、それらをつかったりするだろう。それがキュウゲキにすすむとどうなるのか。ニンゲンのロウドウシャがいらなくなるのである。「いない」とはどういうことか。「やとわない。」「リストラ」というやつである。エーアイやロボットがセイサン

するから、ニンゲンのロウドウシャはいらないということである。

シホンカはエーアイやロボットにまかせてセイサンする。リストラされたロウドウシャは、いえではたけをたがやしたり、ザツヨウのしごとをしたりするようになるかもしれない。ロウドウシャにとってよくないようだが、むかしはそうやってくらしているひとがおおかったのではないか。それでまあまあやっていけるのなら、さきにいった、シホンカとロウドウシャのタイリツはおわりである。リョウシャともジッサイにはつきあわないわけであるから。

しかし、シホンカがノウチをタクサンかったばあい、ロウドウシャは、そこではたらくようになるかもしれない。コサクニンになるというわけだ。なんのことはない、またショウエンセイになるというだけだ。それであまりにロウドウジョウケンがわるいとうなるか。ガッシュウコクのナンボクセンソウのようになるかもしれない。

ナンブではドレイをつかったノウギョウをしていて、ホクブではコウギョウセイサンをしていた。ナンブがドクリツしようとして、センソウになったというシジツだ。やはり、ショウエンのロウドウシャが、うらみつらみをいうようではセンランになるかもしれない。イッポウ、コウギョウセイサンをするひとや、ドクリツテキにくらすひともあるだろう。こういったシャカイをナンボクタイセイといっておこう。

ただ、ガッシュウコクのばあいには、ホクブはコウギョウセイサンをしていたからシキンはあった。しかし、このヨソウのばあいはそうではないかもしれない。シホンカはノウギョウもコウギョウもおさえているかもしれない。ニクダンセンでたたかうことはできるが、ショウエンがわがグンとなかよくしていたら、ショウエンセイはながくつづくだろう。ホクブはホクブでジキウジソクやコウギョウセイサンをしていれば、まあモンダイはない。そうやって、シホンカとロウドウシャのタイリツはおわる。かわって、シホンカとコサクニンのタイリツがおこるかもしれない。

ジウニ、『オ』サンジウイチ

ロウドウシャのチンギンをあげる。そのひとがロウドウシャならうれしい。しかし、そのドがすぎてしまうと、ロウドウシャドウシのキュウリョウのうばいあいになり、リストラされることになる。また、さきにいった（●ジウイチ、『オンガクイチエンのジダイ[イカ、オ]』サンジウ）エーアイとロボットのカツドウもあるから、キュウリョウがあがるといっても、すなおによろこべない。タンジュンに言えば、ニンゲンのロウドウシャにはらうキュウリョウより、エーアイ、ロボットのイジヒのホウがやすければ、ニンゲンのロウドウシャは、リストラのタイショウになる。

ニホンジンよりナンボウのほうのくにのひとにつくらせるとかをいままでやっていたが、それらのくにのひとより、エーアイやロボットのホウがやすければ、そうやってセイサンするカノウセイがおおきい。エーアイより、ロボットのホウが、うごきがあるブン、つくるのがむずかしいだろうから、ニクタイロウドウならば、とりあえずはリストラにはならないかもしれない。しかし、ジカンのモンダイというきがする。

ジュウサン、『オ』サンジュウサン

「コウコウ、ダイガクにはいかななくてもよいのでは。」というテンについてのべた（●サン、『オ』ジュウ）。それはなぜか。そこでおぼえるチシキはそこらへんにあるし、ヒツヨウなときにネットワークからよびだすことができるからだ。タンジュンにいうと、「チシキ」へのアクセスカカクがやすくなったのだ。それはネットワークカンキョウがととのったことによる。パソコン（ネットワーク）が「チシキ」へのアクセスカカクをやすくしたわけだ。もっというと、もはや、ただとおもわれているかもしれない。それなら、ガッコウにたかいかねをはらうことはない（しかし、ケンキョウシヨクなどチシキでショウブするしごとだったら、ガッコウにいくのがいいだろう。）。

「チシキ」へのアクセスカカクがさがったのだから、ガッコウのガクヒもやすくなるのがシジョウのジョウシキである。ゲンにダイガクなどはテイインわれがでているときく。しかし、どうもゼイキンをトウニョウするようだから、やすくはならないというか、ガッコウがオンゾンされる。まあ、（キョウシ、キョウジュにタイする）シツギョウタイサクもあるからだろうが、ガッコウがシンボするのかうたがってしまう。こんなだから、コクサイキョウソウリョクのあるダイガクがでてこないのだろう。

ジュウヨン、『オ』サンジュウヨン

パソコン（とネットワーク）が「チシキ」へのアクセスカカクをさげた（●ジュウサン、『オ』サンジュウサン）。いまはもっとそれがすすんでいる。それはそうだ。パソコンがフキョウして、ニ、サンジュウネンたつからだ。コンドは「エーアイ」によって、ズノウロウドウがやすくなるだろう。ズノウロウドウという、キョウジュウネンダイから、ニホンキギョウがジュウシしていたブンヤだ。セツケイがニホンでおこなわれて、セイゾウがカイガイというセイヒンのつくりかたが、そのレイである。ほかには、ホンヤクとかキャクホンとかケイリとかそういうシヨクシュである。ガッコウのキョウシもそうかもしれない。そういったシヨクシュのロウドウのカカクがさがる（さがっている）だろう。カンタンにいうと、エーアイがもちいられて、ひとはベツのしごとをするようになるということだ。それもまたゼイキンをトウニョウしてロウドウシャをまもるのがキョウミぶかい。

ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ

「エーアイによって、ズノウロウドウがやすくなる（●ジュウヨン、『オ』サンジュウヨン）。」のつぎはなにか。ロボットのリョウである。これはいますすんでいて、タンジュンなうごきのニクタイロウドウはつぎつぎとおきかえられるであろう。たとえばショウテンのハンバイイン、インシヨクテンのテンイン、タクシーのウンテンシュ、セイソウインなどがロボットにおきかえられる。やっぱり、これでシツギョウするひとをどうささえるのが、キョウミぶかいところであるが、さきのふたつのおきかえ（コンピュー

ター、エーアイ)をふくめてまだニンゲンのロウドウシャが、はたらきつづけられるはたらきかたがある。

それはショクニンになることである。つまり、トクテイのブンヤで、コンピューター、エーアイ、ロボットをタクエツするギジュツをもっていれば、はたらきつづけられるということだ。ジンリキでなにかをするひとをアーティストという。ニホンでアーティストというと、サッカ、ゲイノウジンであるが、アート(てサギョウ)をさきのみつつにまけないスイジュンまでたかめられれば、シツギョウしない。しかし、ジブンがへたなアーティストだとおもうのなら、いまからジュンビしておいたホウがいいかもしれない。エーアイやロボットにおしえられるくらいじゃないときびしいだろう。

ジュウロク、『オ』サンジュウロク

コンピューター、エーアイ、ロボットのハッタツのためにチシキへのアクセスのカカクがさがり(●ジュウ)、ズノウロウドウのカカクがさがり(●ジュウヨン、『オ』サンジュウヨン)、ニクタイロウドウのカカクがさがる(●ジュウイチ、『オ』サンジュウ、ジュウニ、『オ』サンジュウイチ、ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ)。そうすると、たいしたしごとをしないぶらさがりロウドウシャはいらなくなってくる。

これまでは、シャカイシュギにサラリーマンがホゴされていたカンがあるが、もうそれもおわりだろう。ひとつでも、それらみつつにまけないギジュツがなければ、はたらくキギョウにとってやとうカチはすくない。これまでは、しごとがカイガイのロウドウシャにおきかえられたが、いまではそのみつつにおきかえられる。じぶんにギジュツがないとすれば、ロウドウシュウヤクテキなしごとをハッテントジョウコクなみのチンギンでやるようだろう。そのときに、サイテイチンギンというホウリツテキしぼりがジャマになる。そのキセイカンワがヒツヨウかもしれない。しごとがないよりましだとおもうのである。

ジュウシチ、『オ』よんジュウ

サイキン、あまりフケイキだということをいわない。ホントウかどうかはともかく、シツギョウもへっているらしい。しかし、 IPPOWで、セイシャインのロウドウジカンのタンシュクをスイショウしている。ケイキがいいなら、ロウドウジカンをはらせないだろう。ロウドウジカンがへれば、セイサンリョウもへるが、キュウリョウもへる。ジツはフキョウなのではないか。シュヨウなホウドウでは、あまりセイケンヒハンはしないので、そういうこともいわないのかもしれない。しごとがへって、キュウリョウがさがってどうするのだろう。おかねをつかわないシュミがはやるんだろうか。

ジュウハチ、『オ』よんジュウニ

シホンカとロウドウシャのタイリツというテーマがある（●ジュウイチ、『オ』サンジュウ）。タブンそのリョウシャともしっかりしごとをするのがよいとおもうが、それによっておきたセイヘンなどもある。

きたチョウセンがカク（ヘイキ）をもってけしからんというとき、そのズシキをおもいだすと、やっぱりよかったのかもしれないとおもうことができるのではないか。つまり、（アメリカ）ガッシュウコクやオウシュウといつかねもちのくにが、カクヘイキをもって（ピンボウでカクヘイキをもっているくにはすくない。）、ロウドウシャカイキュウのきたチョウセンがカクヘイキをもてば、もはやかねもちだけのイシで、セカイをうごかすことはできなくなる。つまり、いままでシホンカによるシハイだったセカイが、ロウドウシャのイケンもふまえたセカイにすることができるようになるのである。つまりはヘイワになるのである。

かねもちは、キトクケンエキをうしなうからつらいが、シホンカとロウドウシャのいいキンチョウをもちつつ、セカイをウンエイしていくことができるのだ。かんがえかたシダイではわるくないだろう。

ジュウキュウ、『オ』よんジュウサン

あるアーティストがサクヒンをだし、シィディをおおいにうったとしよう。ヒャクマンマイうれたとする。そのヒョウカについてひとは、「アーティストのコセイが、よにみとめられた。」などという。しかし、ホントウに「コセイ」でうれたのだろうか。

わたしがおもうには、「コセイ」はニのつぎで、そのアーティストをオウエンしようというひとびとがタクサンできたことで、ヒャクマンマイのうりあげをタッセイしたのだとおもう。もっといえば、オウエンするひとがヒャクマンニンいるから、かれらにささえられて、つぎもいいサクヒンをかれはつくるはずである。

わたしは、キュウジュウネンダイにうれたアーティストのサクヒンをそうおもった。オウエンするひとがバクハツテキなうりあげをつくるのである。オウエンがいいオンガクをつくらせるのである。

ニジュウ、『オ』よんジュウゴ

シィディやディブイディ、ホン、そのタネットワークなどでキョウキュウされる「こと」を、わたしは「ギジ（ダイリ）タイケン」とよんでいる（●『よ』ヒャクよんジュウよん）。「ダイリタイケン」ではあるけれども、それらはジョウホウギジュツのハッタツで、ダイタイ、アッシュクされている。また、ナイヨウもムダなブブンをなくして、アッシュクされたナイヨウである。だからここでは、これらを「アッシュクタイケン」とよぶ。サイキンのこれらのトクチョウは、カカクがやすくなっていることである。もしくはそんなにうれない。なぜかという、チュウコシジョウをふくめて、タクサンのしなかず

があるからだ。キョウキュウがふえれば、カカクがテイカするというはなしだ。だから、ものとしてではなく、チュウコシジョウにながせない「データ」としてうるケイコウがつよくなっている。それなら、チュウコシジョウにながせないから、カカクがやすくならないというわけである。

しかし、まだシィディやディブイディ、ホンはつくられつづけている。だから、カカクのテイカはとまらないわけだ。トクにわたしがキグするのが、「アニメ」である。これは、ひとりがイチニチ、サンジュウマイのえをかい、ゴセンヨンヒャクニチ。つまりジュウゴネンかかって、イチジカンハンのアニメがカンセイする。それほどかずのおおいアッシュクタイケンなのである。このカカクがさがると、つくろうとするひとがへってくる。それをおぎなうためにコンピューターギジュツをつかって、ゴウセイしていくサクヒンがふえるだろう。そうすると、もはやアート（●ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ）ではなくなる。まるばつさんとコンピューターのキョウサクですというようになる。だからそういうジョウキョウをさけたければ、オウエンすべきだとおもう。「アート」としてのアニメがホウフにあったジダイはおわりつつあるということだ。ほかのアッシュクタイケンもそうだが、トクにアニメがケンチョだとおもう。

ニジュウイチ、『オ』よんジュウロク

カガクというのは、エイゴでエスシーアイ、きるというセットウジのつくことばである。だから、ドンドンこまかくみていく。ケンビキョウができて、さらにブンシコウゾウ、またそれよりこまかいものをみるというように。

くすりはむかしはショクブツなどからつくっただろうが、いまは、カガクシキをかんがえてつくる。いいカガクシキをかんがえてつくる。いいカガクシキとゲンブツをつくれれば、コキヤクにかつてもらえるわけである。しかし、ベツにそこまでこまかくしないで、もいいかもしれない。つまり、ヨブンがあるくすりみたいなものである。たとえば、ショウガのなにかのセイブンが、いたみにきくが、そこまでこまかくしないで、ショウガつかうといったぐあいである。カガクシキにもとづいてブンシをつくるやりかたはメンキョがヒツヨウだったりする。しかし、コーヒーをチョウゴウするのにはメンキョはヒツヨウない。そういうくさカガクがおもしろそうだとおもう。たべたらおもしろくなるくさも、ハッケンされるかもしれない。

ニジュウニ、『オ』よんジュウなな

このまえ、マンネンヒツをデンシショッピングしていた。いまわたしがひらシャインだとしたら、ショウシンしていくたびに、どういうそれをつかうかというぐあいにしらべた。モチロンこのみがあるから、すべてがタイショウにはならない。ひとそれぞれのものがたりがあるからだ。しかし、えらんでみると、アンガイかずはすくない。シャチョウなるまでひととおりにしらべたが、ジユウドはそんなにない。イチヤクショクにみつつ

センタクシがあればいいほうだ。それでちょっとショウシンしたきになって（おそらく「かかりチョウ」だ。）、かってみた。

しかし、うれしいのだが（ショウシンがであろう。）、あまりキノウテキとはいえなかった。ガイコクセイ（カイガイフニンといえるかもしれない。ちなみにわたしのキャリアパスでは「とりしまりやく」までカイガイだった。）のそれは、ほそいといわれるふでさきでもふとい。だからわたしにはつかいづらい。キャリアパスをまっとうするには、エイゴをつかえばよいのかもしれないが、それもどうかとおもう。だからさらにセンタクシがせばまる。そうすると、えらんでいるのだが、ほとんどえらべないのである。また、ショウシンしたら、まえにつかっていたものにもどせないようなきもする。それはコウカクだからである。そういうわけで、シュッセするとあとがなくなる。

それなら、あまりショウシンしなくてもよいのではとおもうようになった。いまのマンネンヒツ（ショウシンまえ）にフマンがあるわけではない。よっぽどフマンやいきづまりカンがでてきたら、ショウシンさせればよいとおもうようになった。つまり、ショウシンするカイキュウもシゲンだから、タイセツにして、だれかがいきづまったら、そのひとをショウシンさせればよいということである。

ただ、がんばっているひと、ユウシュウなひとが、あまりセイセキのよくないひとにさきにショウシンされるというのは、あまりおもしろくないだろうから（そういうシャカイシュギのシツパイをくりかえすのではノウがない。）、カイキュウとキュウリョウはバツにするわけである。だから、ユウシュウなひらシャインのまるクンはネンシュウハッピークマンエンだが、カチョウになったバツさんはネンシュウがヨンヒャクマンエンというぐあいである。ショウシンについてかんがえてそうおもった。

ニジュウサン、『オ』よんジュウキュウ

ショクジをとると、やがてウンコがでる。これはニンゲンにとっては、あたりまえのことかとおもう。むかしのヨーロッパでは、それをそとのドウロになげすてたという。しかし、ゲンザイではゲスイドウにカイシュウしているのだろう。このようにチツジョからはイッテイのディスオーダー（フチツジョ）がでるということは、しかたのないことだとおもう。ほかのレイでいえば「ごみ」である。それをリサイクルして、またチツジョにくみこんでいくというハウホウをいまはとっている。かわって、ロウドウのパメンではどうだろうか。やはり「ウンコ」とか「ディスオーダー」はでないであろうか。

あまりきかないが、「ディスオーダー（カイシャからみれば）」ホンニンのモンダイではない、がたまってドクリツ、リショクするひともあるだろう。たまに、しんでしまうひともある。そういえば、シンソツのあるイッテイスウがナンネンイナイにやめるといわれている。しんでしまうのはトクにモンダイだが、タイショクするひとをふくめて、「ディスオーダー」のショリがわるいともいえるのではないか。テンショクするうちに、「ディスオーダー」のショリをおぼえていたのかもしれないが、わたしもそのショリがうまくない。まあ、さけをのむなど、いいカイショウハウがあればいいとおもう。

ニジュウヨン、『オ』ゴジュウイチ

キョウソウをぜとしたり、キョウソウをいかんとしたりする。イッパンテキには、あるアイドルのキョウソウは、そこであつかうものをシンカさせたりするためにのぞましいとされるのではないか。しかし、ホントウにそうなのだろうか。チョメイなショウをとったニホンジンはいるが、ニホンでサイコウとされるダイガクは、あまりコクサイキョウソウリョクをもたないという。そこにはいるためにタブン、キョウソウしたであろうにもかかわらずである。ホントウにダイジなのはキョウソウだろうか。あるキギョウブショのレイでかんがえてみる。

まるさんは、しごとができるホウで、バツさんはあまりしごとができない。このふたりがのみにいくと、まるさんは、バツさんのことを、「きみがいったダイガクがわかった。だからしごとができないんだ。」などとさんざんいやみをいう。バツさんもバツさんで「そうだよね。おれのセイセキがわかったから。」などという。これはセイサンテキか。また、かりにまるさんのことばにタイして、「ばかやろう。おれはおまえのコソクなやりかたがきにくわねえんだ。」といったとしてもどうだろう。ほとんどセイサンセイがない。しごとのはなしではなくコジンコウゲキをしているからだ。ダイジなのは、ココがそれぞれのしごとをきちんと、なるべくよくなるように、やることで、そういったフモウなシテキやケンカをすることではない。フモウなコウゲキやケンカをするブン、セイサンセイはさがるだろう。

だったら、キョウソウじゃないのかであるが、モチロン、セイセキによるキョウソウテキなものはあるだろう。しかし、それはそれでホンシツではないとおもう。フモウなコウゲキのかわりに「このまえのしごとのカイゼンをかんがえた。こうこうなんだけどおまえはどうおもう。」「それならあしたホウがはやくできる。」となればセイサンテキである。わたしにいわせれば、ベンショウホウのあるココのドリョクではないだろうか。カイゼンがヒツヨウなければ、ベンショウホウはいらない。キホンテキにはしごとはコジンがするものだからである。しかし、ニホンのダイガクのコクサイキョウソウリョクがひくいというのは、ニホンジンがベンショウホウをにがてとするからではないか。

ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ

「うまれかわり」などという。「ゼンセイはなんだったか。」というはなしも、わたしがこどものころにきいたことがある。それはイデンのはなしではない。マテリアルのはなしである。

エーさんというひとがいたとして、そのエーさんのイチブは、もと うしや、もとホウレンソウでできていることは、ヨウイにソウゾウできる。わたしも（このいいかたがテキトウかはわからない。「わたし」は、ジョウホウであるカノウセイがあるからだ。）、そういうぐあいである。わたしがしんだら、タブン、カソウされて、ほねとキタイとかすがのこるんだろう。そこからどうリサイクルされるか、なんかのドウブツ、ショクブツの

かてになるかはわからない。ほねは、はかなどでホゴされるだろうし、キタイはふたたびリクチにおいてこなければわからないし、かすはカソウジョウのゴミとしてショリされるのだろう。

こういうかんじでは、「うまれかわり」はゼツボウテキだ。わたしはドソウができないのなら、サンコツとかジュモクソウにしてもらいたいかもしれない。サンコツやジュモクソウなら、ショクブツにほねがキュウシュウされて、それがドウブツにたべられてという「うまれかわり」がセイリツする。わたしをかりにマスター（シソ）としたら、そのイチブたちがうまれかわりをするわけだ。その「イチブ」をワンスルーということにする。ワンスルーがうまれかわりをするということは、もののリサイクルである。だからそうするばあいには「ライセイ」のはなしにもなる。

くさからドウブツ、そしてニンゲンになればたいしたものだ。そういうわたしもカコのだれかのワンスルーがふくまれているかもしれない。ヨウするに、ゼンセイのゼンセイがニンゲンだったかもしれないのだ（ゼンセイはショクブツかドウブツがほとんどだろう。たまにキンルイとかコンチュウもあるかもしれない（きのこ、いなごなど）。

だからゼンセイをさかのぼっていくと、やっぱりマスターにいきつくだろう。ニンゲンのマスターのことをセイショではゲンキュウする。そこからまえのはなしになると、どうもたちばがわかるようだ（かみがつくったとか、シンカしたとか）。マスターヒューマンのゼンセイはどうだったか。やっぱりくさとかドウブツだったとかかんがえるのがシゼンでないか。イデンシをしらべればわかるといったって、サイボウのフクセイギジュツはジョウホウである。ものがなければフクセイはできない。もののありかたにオウじて、ギジュツがハッテンしたのではというきがする。

だから、くさとかドウブツのブンシをしらべれば、かこにあったもの、シンカするまえのくさ、ドウブツのすがたがソウゾウできるのではないかとおもう。しかし、くさ、ドウブツ、プリヒューマン、ヒューマンというジュンカンはそれほどかわらないとおもう。だが、セッキ、テッキをハッタツさせるまえの「プリ」ヒューマンはドウブツのセツシュがすくなかったようにおもう。だからゲンシテキなヒューマンは、くさ、プリヒューマンというジュンカンだっただろう。「はか」をハッタツさせるまえだったら、くさ、「プリ」ヒューマン、ドウブツだっただろう。つまりドウブツのホウが、カイソウがたかいのだ。それをマイソウギジュツのハッテン（はじめのうちは、ユウリョクシャだけだっただろう。）により、「プリ」ヒューマンがカイソウをあげた（もはやヒューマンかもしれない。）。セッキのハッタツもジュウヨウだが、それでもやっぱりドウブツのホウがうえとなる。もっとまえになると、ショクブツよりカイソウがひくかったかもしれない。つまり、うごけないプリプリヒューマンである。ショクブツ（こけのような）にキセイされるようなプリプリヒューマンである。

プリプリヒューマンのまえはわからないが。さるからハッテンしたといわれたりもするが、ホントウのところはわからない。さるはさるでのこっていわけだから。イデンシがにているといってもそれはショクリョウのキンジであろう。それともコンゴ、ポストヒューマンをみとめるのだろうか。ポストヒューマンをみとめるとしたら、シンカのズシキにあるようなえだわかれもカノウだろう。まあ、ブゾクあらそいなんかしてもしょうがないのだが。

ひとついえるのは、セイショがかかれたのは、はかがハッタツしたあとだろう。それかドウジキだったかもしれない。だから、「ニンゲンがチキュウをシハイ」なのだ。エジプトおうのコウセキがおおきいだろう。あんなおおきなはかをつくったのだから。そのまえはほかのドウブツがチョウテンだった。もしヨゲンシャがジュウヨウなもののハッテンのときにあらわれるのなら、セッキをつくったときにもあらわれるはずだ。ただそれをキロクするものがなかったかもしれない。ただ、はかとドウヨウにフキュウしただろう。ただ、ニホンにはイッパンテキに「サイゴのシンパン」のかんがえがないので、もやしてしまうのだろう。リンネテンセイのホウがいいとおもうのだが。

ニジュウロク、『オ』ゴジュウサン

ユウセイセイショクのリテンとはなんだろう。クローンもつくれるジダイのはなしである。よりよいケイシツをもちあって、よりよいこがつくれることだろうか。たしかにそれならすぐれたひとばかりになる。ただそれはギャンブルのようで、よりわるいケイシツがのこることもある。しかし、そんなにシゼン、そしてシャカイカンキョウはきびしいのだろうか。たしかにショクリョウがなかったり、みずがなかったりするチイキはあるようだ。

いまなら、いいデンキ（デンシキキ）をつくれるひとがユウシュウなんだろう。かわでセンタクをしてもいいはずだ。まあ、デンキはフウリョクハツデンでもできるから、ネンリョウにたよらないデンキジダイはいいかもしれない。さしづめ、このまえは、ユキ（セキユ）ジダイだろうか。そのまえは、タンキ（セキタン）ジダイだ。はたしてこういうシンボは、いつまでつづくのだろう。それがユウセイセイショクのシュクメイだろう。

ニジュウシチ、『オ』ゴジュウロク

「わをもってとうとしとなす。」とショウトクタイシがいったという。だからニホンジンは「わ」をダイジにするんだろう。ニホンはシュウダンシュギのブンカともきかれる。それでいいのかというハンセイがあったかわからないが、わりと「コ」のこともいうようになった。「コセイソンチョウ」など。ただ、ロウドウシャにとってはロウドウすることがダイジだろう。「わ」でも「コセイ」でもいいが、とにかくはたらくことだ。

サギョウというのはキョウドウサギョウもあるが、ひとりでやるのがキホンだ。だから、「コ」がしっかりしていなければいけない。あまり「わ」をおもんじてしまうと、「わ」をなすサギョウ、タンジュンにいえば、なかよくするためにジカンがさかれてしまい、カンジンのしごとがはかどらないとなる。だから「わ」をなすでもほどほどにしたホウがいい。「わ」をおもんじすぎると、カイカクがすすまず、「コ」をおもんじると、ヤクショクからおろされたりと。わたしからみれば、「わ」をおもんじすぎると「ヘイサテキ」におもえる。

ニジュウハチ、『オ』ゴジュウなな

さきにはなしした「ゼンセイ」のはなし（●ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ）は、もののはなしである。イデンシによってサイボウがフクセイされるというのは、どちらかというとももののはなしではない。「もの」はほかにヒツヨウだからだ。だから、ジョウホウとかギジュツであろう。サイキン「ゼンセイ」のはなしをあまりしなくなった。むかしはだれかがしているのをきいたものだ。「オカルト」とかそっちのホウのあつかいになっているかもしれない。そういうわたしも、そのてのはなしは、すきではなかった。ヒカガクテキなはなしのようにおもっていた。

しかし、よくかんがえてみると、「もの」のはなしである（ニンゲンのからだをコウセイするブッシツの）。だからそれはたしかなのである。ただそれがどこからどこにいったといったはなしは、タイテイオクソクだからウサンくさい。そういうことである。ジョウホウにはいいカゲンなそれがある。ただそれだけだ。

ところが、サイキンそのはなしをしない。どうもイデンのホウが、セットクリョクがあるのだろう。ガッコウでもおそわる。しかし、それがどのザイリョウをつかってカノウになるかはあまりいわない。セツメイはカノウだろうが、そういうもののはなしはしない。そういうのを「ジョウホウカシャカイ」というのだろう。そのジョウホウをしったって、ものがなければくみたてられない。だからしょうがないといえしょうがないはなしなのである。そういうものぬきのはなしにどこまでたえられるか。オンガクもビデオもホンもデンシカ。もののないなにかである。むかしはジンリキでつくっていた。それをアートとよぶ（●ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ、ニジュウ、『オ』よんジュウゴ）。どこまでジョウホウカするのはわからないがアートをダイジにしたい。

ニジュウキュウ、『オ』ゴジュウキュウ

ワンスルーのはなしをした（●ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ）。マスターヒューマンのイチブだったそれには、マスターヒューマンのほかのイチブというキョウダイというかドウシというかがあるだろう。マスターヒューマンがしんでブンカイすると、そのタスウのワンスルーはカクサンする。そしてつぎのショクブツやドウブツのコウセイブツになるわけだ。センコワンスルーがあれば、センコのドウショクブツのコウセイブツになるかもしれない。そうすると、そのセンコのワンスルーのエンで、センコのドウショクブツはキョウダイといえるかもしれない。それがくりかえされると、シンセキがふえていく。そうかんがえると、カケイでなくて、ものとして、ケッコウなはずのひととキョウダイであるといえそうなのだ。それをニンシキできるかはわからないがそういうエンもありそうだ。

サンジュウ、『オ』ロクジュウ

ニジュッセイキのゼンハンにはインフレがおこったという。おかねよりもののホウがアンゼンだと、ひとびとがハンダンすれば、ものがヒツヨウイジョウにかわれ、もののねだんがあがる。ニホンもセイサクテキにインフレをねらっているらしい。スウパーセントテイドのインフレという。

しかし、きをつけなければならないのは、もっとおおきいインフレだ。それはセイフフサイのショリによっておこるかもしれない。すでにセイフやジチタイのコウサイハッコウガクはセンチョウエンをこえた。これはかえせるのかというと、いまではキンリをかえすのがセイゼイのようだ。だからもっとふくらむ。それをひどいやりかたで、たとえばブッカにテンカするというやりかた（タンジュンにいうと、ショウヒゼイのようなゼイキンをとりたててショリするやりかた。）をすると、シジョウにでまわっているエンをニヒャクゴジュッチョウエンとカテイして、そのよんバイのセンチョウエンを、ショウヒンカカクにうわのせすることになる。つまりニヒャクゴジュッチョウエンで、センニヒャクゴジュッチョウエンのものをかうことになるから、カカクはゴバイになる。もうひとつかんがえかたがある。

あとスウネンでセイフフサイはコジンキンユウシサンとおなじくらいのガクになる。そこでセイフがトクセイレイをだしたらどうなるか。セイフフサイのブンだけあたらしいかねがヒツヨウになる。それをジッサイにすると、コジンキンユウシサンとあわせ、コジンキンユウシサンのニバイのかねがあふれることになる。そうすると、ニバイのインフレとなるわけである。どちらにしてもきびしいが、ヨウイをしておくといいかもしれない。

サンジュウイチ、『オ』ロクジュウニ

やすいなにかはおかいどくかもしれない。わりとカカクをみてかいものをしたりするだろう。やすいものをえらんだりする。しかし、「やすものがいのぜにうしない」ともいう。なぜか。それはやすいカカクには、リスクがふくまれていることがあるからだ。つまり、それはフベンなもの（サービス）だったりするわけだ。うるホウもなるべくたかくかってほしいところであろう。だから「やすい」にはきをつけたほうがいいだろう。

サンジュウニ、『オ』ロクジュウゴ

こどもはやがてガッコウに行く。ガッコウでキョウカショをめくり、ジュギョウをうける。ガッコウをソツギョウしても、やっぱりジュギョウにおセワになるかもしれない。なにかというとテレビである。ガッコウですなおにジュギョウうけていられたのなら、テレビキョクがながす「ジュギョウ」をうけるくらいわけないであろう。そうかんがえると、ニホンジンはしぬまでベンキョウしているんだなおもう。そういえばわたしのオヤジもケッコウテレビをみていた。しかし、わたしはカイガイにいついたときがあるので、ことばがわからずテレビをみないことがおこった。いまになってもそんなにみ

ない。だから、そのセンでいくと、わたしはわるいセイトだ。「ベンキョウ」していないことになるからだ。

しかしながら、そういうジカンができたことでかんがえるようになった。かんがえたってしかたないのであるが、ちょっとかわったセイトになったかもしれない。いまは、パソコンネットワークのハッテンで、そのハウメンからハッシンされるニュースをよんだりする。パソコンガッコウのセイトではあるわけだ。それはなにがいいか。うるさくないことであろう。それはホンをよむこととかわらない。つまり、「キョウカシヨ」だけちょっとよんで、あとはジシウしているのである。だからしゃべるのはへたになるかもしれない。モデルとなるセンセイのことばをきかないわけだから。

サンジュウサン、『オ』ロクジュウロク

ひょっとしたら、「かみ」が、かんじるひとの「そと」にあらうが、「うち」にあらうがモンダイはないのかもしれない。それはこういうことである。ゲンダイには「マヤク」があるとされている。そのマヤクをつかうひとの「うち」にいれるのはモンダイとされるが、「そと」にあるばあいもまたモンダイなのである。それは、マヤクをつかったり、うりかいしたりするカノウセイがあるからである。「そと」にもっているとすれば、そのひとがつかわないにせよ、チキュウシャカイというおおきなめでみれば、つかっているのとドウヨウであらう。

タブンこういうことだとおもう。マヤクは「ある」イジョウしかたがないが、あるノウドをこえてセッシュするとモンダイだと。タンジュンにいえば、「ある」マヤクをセカイジュウのひとにキントウにいれさせればモンダイはないと（コウカがうすい。）。こいノウドであるひとの「うち」にいれるからモンダイだと。だから、ハウリツテキにはキンシされているのだけれども、「ダメ」か「ダメじゃない」かのニタクではなくて、テイドのモンダイなのであらう。「マヤク」だってリサイクルがあるはずなのである。

このモンダイは、「かみ」にもいえるかもしれない。やっぱり「うち」にあるか「そと」にあるかはモンダイなのではないだろう。キョウシンはこわいメンもあるけど、まったくいいきるのもこわい。テイドのモンダイではないか。

サンジュウヨン、『オ』ロクジュウなな

ハチジュウネンダイからキュウジュウネンダイに、ニホンはコウギョウセイサンなどのシュイのザについたともいわれる。しかし、それイコウあまりそういうことをいわなくなった（シュイからおちたからでもあらう。）。「まもりをかためたふねぶね」みたいないかたもあまりきかない。ジッサイに、オウベイではケイザイセイチョウがつづいているが、ニホンはあまりしていないという。なぜそうなのか。

わたしなんかのレイでも、なにかがたりないなかでケンメイにドリョクしているときはタイクツとかそういうことはおもわなかった。しかし、ひととおりのものがそろってしまおうと、そのあとにタイクツとおもってしまう。つまり、ニホンジンが「センゴフッコウ」のブンミヤクでうごいていたときは、とにかくがんばっていたが、ひととおりのそれがお

わると、あまりがんばらなくなったのではということだ。がんばらなくなったというか、がんばりにくいのだろうとおもう。

わたしなんかはこどものころにめぐまれていたので、「センゴフッコウ」のセンでかんがえることができなかった。しかし、「センゴフッコウ」がおわっても、セイサンカツドウはおわらない。ジブンとショウブなのかもしれない。シンリガクでは、ジブンのそののモンダイでがんばらなければいけないときは、そのモンダイがなくなると、ドリョクをやめてしまいがちだが、うちの（そのひとの）モチベーションでなにかをすると、やるきがながもちするという。ニホンジンもそうした「うち」のモチベーションでしごとをやるときなのかもしれない。

サンジュウゴ、『オ』ロクジュウハチ

かねのあつまるところにトシができる。トウキョウもそうだし、ニューヨークだってそうだろう。いまはセイフがゼイキンをとってサイブンパイをおこなうから、セイジジョウのシュトにトシができることがおおい。セイフがゼイキンをとらなくなったらどうなるか。かねもちのいるところ、キギョウのあるところにトシができるはずだ。キギョウジョウカまちということばがあるが、それがふえるだろう。そうすると、シャカイタイセイはトシコッカにちかくなるであろう。

いまのところ、セイフがいらないというはなしはあまりしないが、もしいらないとなると、そういうタイセイになろう。いくつかのトドウフケンをまとめるやりかたよりキョクタンではあるが、むかしはそれでやっていくにもあるので、フカノウではないだろう。しかし、やっぱりセンソウになるのかもしれない。

サンジュウロク、『オ』ロクジュウキュウ

「はか」がセイブツカイにおけるニンゲンのカイソウをあげたことをシテキした（●ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ）。これはユウメイなのでエジプトおうのはかがある。こういったはかでまもれば、ほかのドウブツにシタイをたべられないわけだ。それからキュウヤクセイショができた。「ニンゲンがほかのドウブツをシハイする。」とかかかれている。こうかかれると、それをタッセイするために（ほかのドウブツにたべられるようじゃ、くらいがたかいとはいえない。）、はかをつくるだろう。だから、キリストキョウは、ほかのシュウキョウとよべるかもしれない。

それをヨーロッパではニセンネンほどつづけ、ジュウキュウセイキになってニーチェがでてきた。かれは、「かみはしんだ。」といい、サイセイをといた。ほかのなにかにサイセイされるということ。その「サイセイ」というのは、「リンネテンセイ」のようなはなしでないか。つまり、ニセンネンほどニンゲンがセイブツカイでサイジョウイとして、ほかのドウブツにたべられないようにしていたが、そうではなく、ニンゲンもリサイクルしたホウがいいということではないか。たしかにキリストキョウカイのセイリョクが、

よわくなっているとき。しかし、マイソウについては、サンコツやウチュウソウなどでできたが、まだフツウのマイソウがおおいとおもわれる。たしかにリサイクルのシソウはひろまっているようだが、まだニンゲンのカイソウをおとすようなかんがえが、タスウにシジされにくいとおもわれる。そういうイミではまだ「かみ」はしんでいないのである。ただ、このゴはどうであろう。

サンジュウシチ、『オ』ななジュウ

ひとがフユウソウとなると、おかねをもつようになるのがさきか、それともフユウソウのタイドができるようになるのがさきなのだろうか。かねのないフユウソウじゃしょうがないから、おかねをもつことがさきとかんがえられるかもしれない。しかし、いきなりおかねをもったばあいは、フユウソウのタイドができていないから、「なりキン」とよばれることがおおいのではないか。ウェーバー（マックス、ドイツのシャカイガクシャ）は、プロテスタントのひとたちのセイジツさがシホンシュギをハッタツさせたという。つまり、タイドがさきでおかねはあとなのではないかともいえる。ニホンではコウレイシャがケッコウなシサンをもっているというから、やっぱりシサンができるタイドができていたのだろう。もしコウレイシャなみにシサンをもちたいというのであれば、コウレイシャのタイドをまなぶといいだろう。わたしはまだそれができていないから、おかねもちにはなにくいかもしれない。

サンジュウハチ、『オ』ななジュウよん

ローカルでのひとつきあいがすくなくなったなどといわれる。また、ミコンシャがふえているともいう。なぜそういうことになるのか。それはヒヨウのモンダイかもしれない。ローカルでひとつきあいするばあい、それぞれがなにもヨウキュウしなければ、ヒヨウはレイにちいか、レイだろう。ジカンやロウリョクはかかるかもしれないが、ほかにほかからない。しかし、もっといいジョウケンがある。それはカイシャとのつきあい、カイシャでのつきあいである。それだと、ヒヨウがマイナスになったりする。キュウリョウがはいったり、ケイヒでおとされたりするからだ。だから、ローカルのつきあいより、しごとでのつきあいをユウセンする。そうすると、ローカルでは、ひとつきあいがうすれてしまうのだ。そうすると、ちかばのひとをしらなかったり、エンができなかったりするだろう。それならそれでカイシャがケツコンあいてをショウカイすればいいかとおもうが、なかなかむずかしいのかもしれない。シュウシンコヨウのジダイならともかく、「リストラ」をしにくくなってしまふからだ。

サンジュウキュウ、『オ』ななジュウゴ

ウチュウのはじまりは「ビッグバン」でセツメイされることがある。バクハツだから、ウチュウはそとがわにむかってひろがっていく。そうすると、バクハツのチュウシンでは、ものというかシゲンというかはすくなくなるだろう。それでそとへむかってシゲンがイドウし、ウチュウはどうなるのか。

ここでいいたいのは、ウチュウのサイセイサンはどうなるのかということだ。そんなことするかといわれるかもしれないが、ながもちするといいだろう。タンジュンなコウセイのばあい、やがてもえきって、「ブラックホール」になるとおもわれる。それで、うそかホントかはわからないが、シゲンをよびもどすわけである。これならサイセイサンである。ウチュウジタイもやはりそうなのでないか。ムダにしないようなくみがあるじゃないかとおもう。ちいさなまるとドーナツがたのくりかえしでないか。

ヨンジュウ、『オ』ななジュウなな

まえに、たらこやイクラをたべなくなっているから、こどものかずがへっているのではとかいた（●『むしのツゴウニンゲンのツゴウ [イカ、む]』ヒャクサンジュウシチ）。また、「まるまるこ」と「こ」をつけたなまえをつけないから、やはりこどもがすくなくなっているのではとかいた（●『よ』ヒャクロクジュウロク）。さかなのたまごをたべなくなっていることと、「こ」をつけたなまえをつけないことは、 이슈のリュウコウであるが、いってみれば、あまりチュウモクされないリュウコウだ。それをセンザイテキリュウコウとよぼう。そして、それをホジするものを、センザイテキリュウコウのシンリコウゾウとよぶ。

「こどもがすくなくなっている。」のは、わりといわれるリュウコウである。よくいわれるリュウコウはそれなりのリュウがセツメイされるが、あまりセンザイテキなリュウコウのはなしにならない。ましてやシンリコウゾウのはなしだとなおさらだ。ほかにヒコンカのリュウコウもそうだ。これはなにがセンザイテキなりョウコウになっているかという、わたしがおもうに、「おむすび」をあまりたべなくなったことだ（「おにぎり」はたべているかもしれない。）。

よく、コンプをたべて、「よろこぶ」とか、まめをたべて、「まめにはたらく」とかいうが、それもたべるリョウがへっているのかもしれない。ニホンジン、センザイテキなリュウコウやそのシンリコウゾウにすなおなのではないかとおもう。きれいによくみえるリュウコウにつながるからだ。ことたまシコウというのがうなずけるようである。

ヨンジュウイチ、『オ』ななジュウキユウ

コンピューターのハッタツで、チュウトウキョウイクがあまりやくにたたなくなるとかいた（●サン、『オ』ジュウ、ジュウサン、『オ』サンジュウサン）。それでもまなびたいひとはいるだろう。いまのところはキョウイク、シュウショクシステムにくみこまれているので、そうカンタンにくずれないとはおもうが、ケンサクすればすぐでてくるチシ

キをおぼえるのに、サンネンかけていいのかというモンダイがある。

コンピューターがコンゴもモンダイなくつかえるのであれば、スウガクやカガクなどを、ゲイジツツのようなセンモンブンヤとしてあつかっていくことがかんがえられるであろう。つまりオンガクなどとおなじあつかいにしてしまうのだ。くわしくはダイガクでケンキュウしてくださいでもいいだろう。それができれば、コクゴやエイゴくらいのキョウイクのみでイチネンでおわらせることができるのではないか。これだと、ジュウななサイでダイガクやセンモンガッコウにニユウガクできる。サンネンブンロウドウリョクもふえるだろう。

ヨンジュウニ、『オ』ハチジュウ

まえにセンザイテキリユウコウのはなしをした（●ヨンジュウ、『オ』ななジュウなな）。しかし、おもいだしてみると、そういういいかたをしなくても、「エンギ」といういいかたがある。つまり、さかなのたまごをたべるという（「こダクサン」など）エンギをかつぐから、こどもがタクサンうまれるというぐあいである。

サイキン「エンギ」ということばをきかなくなった。エンギをかつぐより、なにかのコウカがあるかないかみたい、キノウシュギテキになってきているのかもしれない。たしかにさかなのたまごをたべたからといって、かならずしもこどもができるわけではないだろう。だからといって、メイシンだでおわらせていいのか。コウカがあるかどうかはともかく、ひょっとしたらこどもができるかもぐらいに、たのしみながらにしたいものである。どうもゲンダイジン、きみじかなのかもしれない。

ヨンジュウサン、『オ』ハチジュウイチ

ニホンでは、ひとがしんだあと、そのシタイをカソウする。そうすると、ほねだけがのこる。それをマイソウする。しかし、それはちょっとどうなのかもおもう。なぜはかにマイソウするかといたら、ひとつはさきにのべたように（●『オ』ニジュウなな、ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ、サンジュウロク、『オ』ロクジュウキュウ）、ほかのドウブツにたべられないようにするためだといえる。これはキリストキョウケイのカチカンであろう。そうやってニンゲンのくらいをイジするのである。

しかし、「リンネテンセイ」だとか「サイセイ」また「リサイクル」というひともいる（●サンジュウロク、『オ』ロクジュウキュウ）。それだったらほかのドウブツにたべてもらったホウが、いのちのエイゾクセイがあるともいえる。つまり、あるひとがもっていたブッシツとしてのからだ（わたしはワンスルーといっている〔●ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ〕）が、ほかのドウブツ、ショクブツにひきつがれるのだ。だから、きみのライセイはたぬきか、などとはなしができる。

かならずしもキリストキョウのように、「ニンゲンがほかのドウブツをシハイしなければならぬ。」ではないから、そうやってリサイクルをすればいいようにもおもえる。たし

かにテンにめされることも（●ハチ、『オ』ニジュウよん）（セイブツではなくて）、もののメンでダイジかとはおもうがテキトウなバランスをみて、リサイクルをすればともおもう。カソウしてゼンメツさせなくてもともおもう。「テン」にめされるとナンオクネンとシンカしたのをもうイッカイとなるし、「テン」にめされないひと、「リサイクル」され、ゲンダイのセイメイのホゼンにひとカツヤクする。それでいいのではないか。

ヨンジュウヨン、『オ』ハチジュウニ

わたしは、『アルカラカンガエル（●『ア』ヒャクハチジュウサン）』いった。あるくから、フウケイがかわってノウがはたらくということである。だからうごかないひとはあまりかんがえないであろうということだ。うごかない「もの」が、かんがえるというのはあまりきかない。サイキンはやりのカテイヨウジンコウチノウソウチにしたって、デンキがなければ、データをあつめられないので、たいしたことはできないであろう。そうかんがえると、デンキがあるからかんがえるかもしれない。

ニンゲンもテレビがうつっていると、かんがえたりもするであろう。おわらいバングミの、ここでわらうのですよとシテイされ、サンプルのわらいごえがでるシュンカンにわらうのは「かんがえる」とはいわない。それはだれかのまねをしているだけだ。それだと、シャカイのジョウシキとかハウソウサッカのおもいをくんだ「かんどおり（●『む』よんジュウイチ）」だ。かんがえるとは、「カン」をヒテイしなくてはならない。ベツにそんなことはしなくてもいいのだが、ひとはいろいろなリユウがあつてかんがえる。

しかし、フウケイがかわるとか、ジョウホウがあるとか、デンキがないとかかんがえられないのである。もっというと、たべものをたべないとしんでしまう。エイヨウもかんがえるもとである。エーアイのハッタツがケンチョになると、それにまけじとかかんがえるひとは、よくあるくようになるか、それともうごかずショウエネでかんがえるようになるかはキョウミのあるところである。

すべてのジョウホウのくみあわせで、ヨソクされとなると、ニンゲンのかんがえることはエーアイによまれてしまう。だから、よまれたくないニンゲンはイチレイヒシャ（ショウギ）のようなてをとりだすだろう。タンジュンにいえばルールをかえてしまうのだ。ニンゲンのブンカも、そういうルールヘンコウをしながらハッタツしたともかんがえられる。カンタンなレイだと、ラテンゴをはなしていたのを、フランスゴではなすようにしたり、コゴをつかっていたのをゲンダイゴにかえたりということである。だから、エーアイがカッタツになると、たとえば、エイゴがチンプカするということがおこりそうなのである。グタイテキにいうと、いままでつかっていたエイゴではなくて、ほかの、またはあたらしいことばをつかいだすだろうということだ。レキシをみるとそうだ。

ヨンジュウゴ、『オ』ハチジュウサン

ニホンにガッシュウコクサンのこむぎと、ギユウニクがはいってきたから、ニホンジンのなかに、かみがチャイロのひとがあらわれたのなら、まあしょうがない（ガッシュウコクサンのこむぎやギユウニクには、ドソウされたガッシュウコクジンセイブンははい

りこむあろう。)

わたしのひげなんかに、しらがとともに、チャイロのけやブロンドのけがまじったりする(バツにそめたわけではない。タンにガッシュウコクサンのこむぎやギウニクをたべたケッカであろう。)。ところがそのひとたちは、ジブンのてで(ビヨウシにやってもらったこともあっただろうが。)、チャイロにしたり、ダッシュョクさせてしまったりしていた。そのひとたちは、タイジュウヒでイッパースントからジュッパースントテイドのガッシュウコクサンのたべものをたべたのだろうか(イチリンでもイチわりでもなく)かみのけをヒャクパーセントそめてしまった。そういうひとたちを「ロッカー」なり、「ヤンキー」とよんだが、それはまあどういふことであろう。

しかし、ジンコウヒでいえば、トウショはイチリンとかイチわりだった。それがふえていったようだ。それをみると、セイフハッピーウのジキュウリツより、ただしいスウジがわかるかもしれない。ニわりテイドガッシュウコクサンのたべものをニホンジンがたべているのかもしれない。わたしはそういうフウにかみをそめるひとをボウメイシャ(●『ア』ヒャクニジュウシチ)とよんだが、まあ、やっぱりニホンジンなのではないかとおもう。しかし、それだけのニンゲンが、ガッシュウコクサンのおかげでいきているというジジツではある。「ニチベイドウメイ」といふことばは、ウサンくさいことばだとおもうが、タイペイイゾンというの、ゲンジツにソンザイするわけである。

ヨンジウロク、『オ』ハチジュウよん

トシのホウでは、そこにすんでいるニホンジンのウンコは、うみにながれるようになっている。ひょっとしたら、ゲスイショリジョウでぬきとられるかもしれない。しかし、エキタイのセイブンをすべてぬきとることは、むずかしいであろう。うみにながれると、うみのショクブツのエイヨウになる。だからうみがゆたかになる。

しかし、ノウチもゆたかにしたいだろう。だから、うみにハンブン、ノウチにハンブンをながせばいいかもしれない。イチニチにロクセンマンウンコがうみにもどされれば(ニホンジンがさかなやのりをたべたとカテイするとそういえるだろう。)、サイセイサンにつながる。

きになるのがとなりのジンコウのおおいくにだ。ハンブンながしただけでロクオクウンコになる。そうすると、そのくにのエンカイがゆたかになるはずだ。そこにハイタテキケイザイスイイキ(イーイーゼット)というキジュンをもちだして、ニホンのギョセンががんばってしまうとケンカになるだろう。たしかにイーイーゼットはひとつのキジュンではある。しかし、バンノウではないだろう。だからそのカイイキのあつかいにカンしてはジュウナンにするのがよいかとおもわれる。「ウンコをかえせ。」といわれてもなかなかむずかしいからである(セイサンリョウがちがう。)。レイセイにいうと「シゲン」なのである。

ヨンジウシチ、『オ』ハチジュウハチ

サッカーでもヤキュウでも、しばらくみているとルールがわかってくる。これらはあいてよりおおくゴールすればかちというキョウギだからわかりやすい。エンジをヒョウカするニンゲンがテンスウをつけるキョウギもある。それもしばらくみていれば、どのくらいのテンがつくかというのはわかってくる。それはみているひとが、テンスウのつけかたをガクシュウして、テンスウをヨソクするわけだ。ニンゲンはそういうことができるが、コンピューターもそういうことができるだろう。

セイジシヨクぬきのコンピューターにヒョウカさせたホウが、よりコウセイかもしれない。そんなことをいっていると、シンパンというしごとがコンピューターにうばわれてしまう。しかし、ニンゲンのいいところは、ひいきをすることかもしれない。まるばつセンシュにコウトクテンをつけたりするというやりかただ。コンピューターは、このてのことがにがてでないか。

しかし、ひいきするシンパンは、ひいきをしたセンシュからはよくおもわれても、ほかのセンシュからはよくおもわれない。だが、コンピューターをドウニュウすると、ニンゲンのシンパンはそのくらいしかしごとがないだろう。そうやってニンゲンは、コウセイというチュウドウテキなポジションからコンピューターによっておいだされてしまう。コンピューターとおなじイケンなら、そのひとのかわりにコンピューターがあるんだから、そのひとはいらなくなる。

そうして、ニンゲンは、かたよったたちばをとるようになる。いってみれば、ニンゲンがよりコセイテキになるわけである。コセイテキでなければコンピューターにかわられてしまうからだ。いまはエイゴがキョウツウゴだから、あえてドイツゴをガクシュウしようとかになるだろう。コンピューターがエイゴシヨウであれば、ドイツゴではなしていれば、コンピューターとしごとのメンでぶつからないことになる。それならそのことばをつかうかぎり、チュウドウテキなたちばのもどれる。しかし、タブン、ドイツゴもコンピューターのおよぶハンイだ。だからベツのことば、たとえばラテンゴとかをガクシュウする。それならやっぱりチュウドウテキなたちばをとれる。ユウキのあるひとなら、あたらしいことばをつくるだろう。そうやってコンピューターとかぶらないように、ふるいことば、もしくはあたらしいことばを、ひとはセンタクするようになる。それならコンピューターにしごとをうばわれないからだ。このジョウキョウをチンプカされたシャカイ（オールドファッションドソサエティ）とよぶ。つまりゲンジョウのシャカイは「ふるい」ということである。

そして、もっとふるいゆえに、あたらしいことばやブンカに、ひとはアイチャクしようとする。チンプカされたシャカイ（ふるいシャカイ。コンピューターがカツヤクしているゆえに。）では、コンピューターによってしごとをとられてしまうから、ふるいか、あたらしいシャカイにひとはテイイしようとする。みちのイメージでいえば、みちのまんなかは、コンピューターというくるまがはしっている。のっていけばアンゼンだが、それをかうのにはおかねがかかる。だから、ひとは、みちのひだりか、みぎによる。ひだりがあるくのは、あたらしいことばやブンカをシコウするひだりみちハだ（セイジシヨクはない。）。もうひとつ、みぎがあるくのは、かなりふるいことばやブンカをシヨウする、みぎみちハだ。できればチュウオウがあるきたい。しかし、あぶないので、どちら

かによるわけだ。

しかし、ひだりみちハも、みぎみちハもアンシンはできない。くるまがよりおおきくなるカノウセイがあるからだ。いってみると、コンピューターかコンピューターをつかつているニンゲンが、ひだりやみぎに、ちょっかいをだすかもしれないわけだ。タンジュンにいうと、ひだりやみぎのことは、ブンカをコンピューターにインストールしようとするのだ。そうやって、コンピューターによって、わたしたちのくにやチイキがショクミンチカされようとする。ショクミンチとはどういうことか。やすいねだんで、ザイ、サービスをソウシュコクにテイキョウさせられることだ。そういうかんがえかたはあまりみえないが、まだのこっていないか。

とりひきとは、ホンライソウホウのゴウイでおこなわれるものだ。しかし、ショクミンチのばあい、ブリョクやシリョクによって、とりひきをキョヒできないようにしたうえで、とりひきがおこなわれる。いまのばあいだと、「ジユウボウエキ」というかんがえかたである。そこではとりひきをキョヒできないように、とりひきがおこなわれる。つけくわえると、キョヒはできるが、あいてもなにかのとりひきで、キョヒやカカクのつみましをせまるだろう。そうやって、コンピューターテイコクはセイリョクをのばす。しかし、わたしは、わたしジシン、もしくははいえのドクリツをイジしたいおもう。

ヨンジュウハチ、『オ』キュウジュウ

セイヒンをカイガイでつくれば、ねだんをやすくできるという。たしかにおかねのメンでいえば、やすくつくれるところもあるだろう。キュウリョウがやすいなどのリョウだ。しかし、ホントウにやすいのか。あるセイヒンエーをつくるのには、ふたりがかりで、サンジュウニチかかるとする。それをカイガイでつくっても、ふたりがかりで、サンジュウニチかかるだろう。カカクのメンではともかく、エネルギーのメンでは、かわらないのである。コストがちいさいとかいうが、やっぱりつかうエネルギーは、かわらないであろう。それなら、コストはちいさくないはずだ。コストはおなじなのである。

ただ、つかうエネルギーのリョウは、かわらずとも、やすくうけおってくれるだれかがいるから、カカクがやくなるというわけである。ホントウにフェアトレードなどをかんがえるならば、セイヒンをカカクでみるのではなく、つかったエネルギーのリョウではかったホウがいいのではないか。

ヨンジュウキュウ、『オ』キュウジュウニ

ニンゲンエーがイーにイドウしてエフにイドウした。これはわかりやすいはなしだ。エーがはじめディにあって、イーにいてエフについたと。しかし、(たとえば)イッセンマンニンのひとがイッセイにエフをめざすといったときに、どれだけそれぞれのうごきがわかるだろうか(エフにちかづくことはわかるけれども)。それをセイリすると、ビーさんがイーにイドウした。シーさんがジーにイドウした。ダブリュさんがイーにイドウし

た。ほかタクサンとなる。ケッキョク、なにかのチツジョ、たとえばジカン、なまへのジュンジョなどをつかって、ひとりずつジュンジョづけていくのがわかるやりかただ。それをおこなってはじめて、そのレキシなどをえがけるようになる。いいカゲンなケイソクをすると、カンゼンなレキシとはよべなくなる。

しかし、これはコンキのいるサギョウだ。かならずチョクセンジョウにできごとがキジュツされるわけではない。たとえば、ハチジ IPPンゴビョウにシーさんがジーに、ワイさんがイーにトウチャクするとなると、どちらをさきにキジュツしたらいいかわからない。そこでどうするかがモンダイとなる。こういうカダイ、かりに「タヨウジョウケンのセツメイ」といっておく、をとくために、ふたつのセンをつかったりするのではない。もしくはもっとこまかくジカンをはかる。そうすると、どちらがさきかがわかる。それならひとつのセンでつづけられる。

ひとつのセンにすると、まるでゲンザイのカガクのようなこまかいケイソクがヒツヨウになるのだろう。つまり、それを（カガク）をやっているうちは、レキシはひとつでありそうなのである。「タヨウ」だからしょうがないのだが、それをキレイにセツメイしようとするドリョクは、いろいろなところでおこなわれている。

ゴジュウ、『オ』キュウジュウよん

ニホンのキョウイクのことを、コセイをハッキさせないキョウイクだということがある。そしてヘンサチでジョレツをつける。でもこれは、ひとつをつかうホウだったらツゴウがいいかもしれない。

つまり、こういうことだ。ビーダイガクのホウガクブをソツギョウしたイーさんがビョウキになって、はたらけなくなったとする。それならやはり、ビーダイガクでホウガクをまなんだエフさんが、かわりにしごとをできるだろうといういれかえがきくからである。それがキョクタンになると、シーダイガクをソツギョウしたジーさんは、ビョウキでしにそうだが、クローンをつくったのもうイッカイいきられる（そのいいかたがただしいかはベツとして。）イシキをイショクするのはむずかしいが、おなじシーダイガクをソツギョウするようにしむければ、まえにいきていたシーさんのようになるだろうと。イデンも、うけとるジョウホウもおなじなら、ほとんどおなじだろうと。しかし、「コセイ」とか「めずらしいジョウホウ」をもっているとなると、それをフクセイするのはコストがかかる。だから、「コセイ」をもっているひとは、きらわれるのではないかと。

シソウしそう ニカン シドクバン

エイゾウ

ニセンニジュウネンサンガツとおか

ニセンニジュウネンゴガツサンジュウイチニチ
ニセンニジュウイチネンクガツトオカ
iii toga db011-2s

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオ
ドシーオーエム
ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

<http://eizo09.com>

『シソウしそう ニカン』シドクバン

著 エイゾウ

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
